

第23回世界スカウトジャンボリー（23WSJ）の概要

1. 会期

2010年9月3日開催の世界スカウト委員会で承認済み

2015年（平成27年）7月28日（火）～8月8日（土）12日間

7月25日（土）大会運営スタッフ入場
 7月26日（日）IST入場・ISTトレーニング
 7月27日（月）ISTトレーニング・日本参加者入場
 7月28日（火）外国参加者入場（一部日本参加者入場）
 7月29日（水）外国参加者入場（午前まで）・設営・開会式
 7月30日（木）プログラム（モジュール）
 7月31日（金）プログラム（モジュール）
 8月1日（土）プログラム（モジュール）
 8月2日（日）プログラム・全体行事
 8月3日（月）プログラム（モジュール）
 8月4日（火）プログラム（モジュール）
 8月5日（水）プログラム（モジュール）
 8月6日（木）プログラム（モジュール）・各国連盟代表広島平和記念式典参加
 8月7日（金）プログラム（モジュール）
 8月8日（土）外国参加者退場（一部日本参加者退場）
 8月9日（日）日本参加者退場・IST退場

2. 会場

場所： 山口県山口市きらら浜

3. 大会テーマ

テーマ： 「和」： **WA: a spirit of unity**

第23回世界スカウトジャンボリーは、伝統 (tradition) と技術 (technology) が交差する日本で、人類の平和 (peace) と調和 (harmony) をめざし、すべての青少年が一つにまとまり (unity)、明日の世界を切り開く (creating a better world) 大会とするため、「和」が大会テーマ。

4. 参加人員・対象者・参加形態

参加人員：30,000人 世界スカウト機構に正加盟する162の国と地域から参加
 （うち日本から6,000人）

*世界スカウト機構により、各国からの参加者は全体の10%まで、開催国からの参加者は全体の20%までと定められている。

参加対象：参加スカウトは、開会式時点で14歳以上、閉会式時点で18歳未満の者
 引率指導者、派遣団本部員（CST）、国際サービスチーム員（IST）、その他運営スタッフは、参加スカウトの対象年齢を超える18歳以上の者

参加形態：従来の世界ジャンボリー同様、参加隊の構成はスカウト36人と成人指導者4人とし、9人のスカウトからなる班（パトロール）4班で1隊を編制。それぞれの班につき1人の成人指導者がつかなければならない。

5. 参加費

世界スカウトジャンボリーの参加費は、世界銀行が定義する国民総所得（Gross National Income : GNI）による4つのカテゴリーA・B・C・Dにより定められる。

カテゴリーD（高所得）の国は100%の参加費、Cは75%、Bは50%、A（低所得）は25%となる。この参加費の減額は、従来の世界スカウトジャンボリー大会で採用されたアプローチに準拠。

参加費：

カテゴリーD	100,000円（日本はカテゴリーD）
カテゴリーC	75,000円
カテゴリーB	50,000円
カテゴリーA	25,000円

* 参加費は外国為替レートの変動に影響されないよう日本円で設定

* I S Tの参加費は、参加者到着前の2日間のトレーニング期間の経費を含み、同額

参加費に含まれるもの

指定の到着ポイント（関西国際空港、福岡国際空港、山口宇部空港、新山口駅）から会場までの往復の交通費

参加隊は7月28日の夕食から8月8日の昼食までの配給等33食

大会運営スタッフは7月25日の夕食から8月9日までのアダルトレストラン等での45食

IDカード、大会参加章（ワッペン）、大会ネッカチーフ（参加区分により色が異なる）、大会ハンドブック等の参加パック

参加隊あるいは班には、食堂フライ、テーブル、イス、炊具、燃料（ガス）

大会プログラムへの参加経費

大会期間中のジャンボリーホスピタルでの処置（既往症が悪化した場合を除く）

場外病院での治療、薬代は大会参加費に含まない。これらは、各派遣団が海外旅行傷害保険あるいは国内旅行傷害保険の付保を強く勧めることで対応する。

6. 提案プログラム (Proposed programme)

(1) プログラム・モジュール

世界スカウト機構の「ガイドラインと基本要件」に沿ったモジュールを英語と仏語で展開。実施への支援は日本語で可能。

- ① 地球開発村 (GDV=GLOBAL DEVELOPMENT VILLAGE) 半日・場内・班単位
- ② クロスロード・オブ・カルチャー (CRC=CROSSROAD OF CULTURE) 半日・場内・班単位
- ③ シティ・オブ・サイエンス (COS=CITY OF SCIENCE) 1日・場内・班単位
- ④ コミュニティ・サービス (COMMUNITY SERVICE) 1日・場外・班単位
- ⑤ 広島ピースプログラム (HIROSHIMA PEACE PROGRAMME) 1日・場外・班単位
- ⑥ 水上活動 (WATER ACTIVITIES) 1日・可能なら場内か会場周辺・班単位
- ⑦ 自然探求 (EXPLORING NATURE) 1日・会場から徒歩圏内・班単位

(2) サブキャンプ (SC) ライフ

世界スカウトジャンボリーではサブキャンプでの生活そのものをプログラムとして提供する。

内容：世界スカウトジャンボリーでは、生活そのものをプログラムと捉えると共に、サブキャンプ内での様々な交流プログラムを提供する。例えば、サブキャンプ内で野外活動技能（パイオニアリング、コンパス他）、スポーツ（サッカー、バレー他）、障害物コース（チャレンジバレー）等を班または隊対抗競技（トーナメント）として行う。また、各国からの参加隊間での交歓夕食会、各国の料理を提供し合う「フードフェスティバル」等のプログラムを計画している。

(3) 全体行事 (CEREMONIES)

「開会式・閉会式」は、とくに安全面での配慮を行うとともに、「教宗派間交流宗教儀礼」を通じて、自身の信仰を深めると共に、他の宗教に対する理解を深める。全体行事としての実施の他、大会期間中を通じた宗教活動の場を提供する。可能であれば「アリーナショー」を実施し、日本の文化、そして参加各国への理解を深める。

(4) チョイス・タイム (CHOICE TIME) 自由時間に行う・場内

内容：自由時間に班あるいは個人の選択で参加できるプログラムを会場内で提供する。一部はデイビジター（日帰り見学者）に解放する。

「ワールド・スカウト・センター」は、各国派遣団本部機能をもった各国のパビリオンで、中心に主催者である世界スカウト機構と各地域のパビリオンを配置する。ここは各国のスカウト運動の情報発信の場となり、参加者は世界各国のスカウト運動と文化が体験できる。

(5) 参加各国代表スカウトの「平和記念式典」への参加

「平和記念式典」は広島平和記念公園で毎年8月6日に開催され、2015年は戦後70周年を迎える。参加各国の代表スカウトはこの式典に参加し、世界に「平和のメッセージ」を訴える。

各国代表スカウトは、前日の8月5日に広島市野外活動センター等へ宿泊し、翌朝7時に会場入りする。毎年広島県連盟が奉仕している案内パンフレット配布や献花用花束輸送等の活動に従事した後、参列者席に着き平和記念式典に参加する。

7. オペレーションきらら (Operation Kirara)

経済的に23WSJに参加することが困難な国のスカウトを支援し、世界の162の国と地域からのスカウトが一同に会する機会を提供する。そのため、大会参加費の3%を充てる。日本参加者からは、大会参加費に1,000円を上乗せし、このプログラムに貢献する。23WSJ日本招致時には、カテゴリーA・Bの国々から少なくとも各1班は参加できるよう支援を検討している（自費参加が可能な分を除く）。このため、政財界・関係省庁からの支援を仰ぐこととする。

8. ホームステイ (Home Hospitality: HoHo)

大会前後のホームステイを通じて、日本の生活様式、文化への理解、相互理解を深める。ホームステイは、スカウト組織のみならず、組織外の青少年の家庭への広げ、参加者に日本の文化を経験する機会を提供すると共に、受入家庭には、受入国を理解する機会を提供する。

また、ホームステイ受入国は、日本のみならず、例えば韓国、台湾、香港、ロシアといった近隣諸国の協力を得て、世界各国からの参加者の要望に応じられるものとする。

9. 「ウェルカム・ザ・ワールド」プロジェクト (Welcome The World Project: WTW)

スカウトの国際理解・国際交流を促進するため、「ウェルカム・ザ・ワールド」プロジェクトを展開する。このプロジェクトを展開することにより、他団体にはない世界162の国と地域につながる活動を展開し、スカウト運動、そして日本の青少年活動に国際性をもたせ、活性化に貢献する。今後、本格的な実施に向けて検討する。

10. ジョイン・イン・ジャンボリー (Join In Jamboree: JIJ)

ジョイン・イン・ジャンボリーは、本来世界スカウトジャンボリーに参加出来ないスカウトたちが世界スカウトジャンボリーのプログラムを体験するためのプログラムであり、参加スカウトにとっては、事前準備となるプログラムである。これにより、日本国内の社会教育、青少年活動全体の活性化に貢献する。

平成26年度は文部科学省の委託事業「国際社会で活躍できる青少年を育む～ジョイン・イン・ジャンボリー「インスパイア・ジャパン」」が去る3月に採択された。

11. 23WSJ準備・実行・支援組織

23WSJは、世界スカウト機構(WOSM)が主催し、ボーイスカウト日本連盟がホスト国連盟となり、WOSMが定めるガイドラインに沿った準備と大会組織が求められる。

これに基づき、2009年10月22日開催の理事会において、23WSJ組織準備委員会の提案により、ジャンボリー・マネージメントチーム(JMT)およびジャンボリー・コアチーム(JCT)をWOSMが求める大会運営組織として設置することが承認された。JMTは主催者であるWOSMとの連携、各国連盟との連絡調整、大会運営全般を行い、JCTは大会各部の部長あるいは副部长等の主要メンバーとなり、大会全体の運営を考える実質的な実行組織となる。

JMT・JCTの下には、各部の部員で長期に渡り各部の部員として準備を行うジャンボリー・デリバリーチーム(JDT)、そして大会直前から大会期間中の運営要員として、国際サービスチーム(IST)が編成される。

大会の実行組織である実行委員会・JMTの会議は今後2回、各国派遣団長会議はこの4月4日から6日まで現地で開催され現地視察や情報共有を行ったが、来年の3月にも再度実施し開催に向けた準備を推進する予定である。

JMTなどの大会組織および23WSJを支援するため、国、BS振興国会議員連盟、経財界、関係地方公共団体、ボーイスカウト日本連盟からなる「23WSJ日本委員会」が2010年(平成22)年6月に編成され、第5回委員会が本年5月9日開催される。今後3回の開催を予定しており、最終の第8回を平成27年の11月下旬に開催し、大会実施報告と決算報告を行う予定である。

以上